

倫理研究所では「地球倫理の推進」として一九九九年より中国内モンゴルのクブチ沙漠で植林活動を実施してきました。

昨年は十周年を迎え、十年間で一千名以上の会員の方々が「緑化隊」としてスコップを手にし、汗を流して三十万本以上の植林を行なってきました。その結果、不毛だった沙漠は今や「森」となり昆虫、鳥、動物が二十種類以上確認されるほどに自然を回復したのです。

もともとこの沙漠は草原や田畑だったのですが、現地で蒙古風と呼ばれる乾燥した強烈な西風に乗ってくる砂に、長い年月によって埋め尽くされてしまったのです。したがって、砂の下は湿っていて水脈もあり、砂丘の断層には黒い「草炭層」を見ることが出来ます。一説によると、中国では一年間で東京都と同じくらいの面積が「沙漠化」しているともいわれています。

植林する樹種は主に現地調達したポプラで、その苗は親指より少し太く高さは一米ートル五十センチほどです。ところが、なぜか植えたポプラはほとんどが数年間大きくなりません。ただし突然、それも不定期に成長するのです。数年間大きくならなかったポプラが、一年間で二倍以上に成長する場合もあります。

ある年、不可解だった「突然成長する原因」が判明したのです。前年植えたポプラが、蒙古風で数千本倒された時がありました。倒れたポプラの根を見て驚きました。ポプラの木自体は植えた時と大きさは変わっていませんでしたが、何とその根は数メートルも伸びていたのです。



見えぬ部分を大切に 経営バランスを保つ

現地の関係者は、「根が水脈に当たるまでは幹や枝は伸びないし、葉もあまり茂りません。なぜなら、根が水脈に当たる前に幹や枝が成長し伸びてしまうと枯れてしまうからです。ただし、根が水脈に当たったなら、そこで一気に成長します。特に砂は柔らかいですから根は伸びやすいんです。根が弱くて水脈まで届かなかった木は、残念ながら枯れてしまいます。砂の中の根は見えますが、実は「根」が重要なんです」と説明しています。

『万人幸福の筈』第四条に「自然は真理の百科事典、書籍はその索引である。万象は真理の顕現であり、芸術の開花である」とあります。葉や枝、幹と根、水分の吸収と発散のバランス、見える部分と見えない部分の関係など、自然の摂理と営みは人の生き方や事業経営にも当てはまります。

言うまでもなく、収入以上の計画性を欠いた過支出は、積もり積もると事業を破綻させます。また、度を越した派手で贅沢な生活を続けると、結局、最後には借金地獄で家庭は崩壊します。二宮尊徳は「分度」と「推譲」として、「分相応につつましく、余剰は子孫、未来、社会に譲れ」と述べています。要するに「バランス」が大切であるということなのです。

沙漠のポプラは、冬は零下二十度、夏は摂氏五十度という過酷な自然環境に耐えています。その暗い砂の中で黙々と根を伸ばす見えない成長が、ポプラ全体の伸長を導く力となります。見える部分は見えない部分に支えられています。日々のたゆまぬ実践は、必ずや実を結ぶものです。

え・栗木 映